

頭書
全
世界國盡

歐羅巴洲

三

四

歐羅巴洲の事
歐羅巴の人別ハ二千
億六千二百萬人々
の内十ヶの九ハ白
人の種々を南の方
よハ黑白相混ドと
る人種レウス北
の方魯西亞の領
の方蒙古人の種
残して顏色白
から

歐羅巴洲

歐羅巴土地

亞西

亞

速

れ

乃

ノ

トテ良山

ト

福
藏
印

ぬもの内見

歐羅巴人種



當時歐羅巴洲中の
國々大小四十九王
國も公國も
帝國ハ唯魯西亞

中字良當河東左
象海少辰之左
琴弔山の林也よき黒
海越えヒキ河
淑利加洲ミヌ野

佛蘭西地利の三
箇國のミ土留古も
或ハ帝國と以ふ
ともれども他の
國々へ風俗も違ひ
別りぬせを英吉
利ハ王國ナモ
格別の強國ナモ
政事の行届き國力
の盛ナムハ歐羅巴

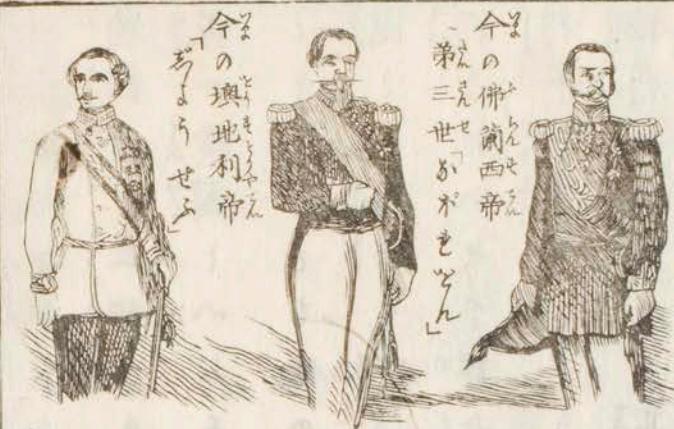
江都良通多官の
深戸遇て西一画河
多羅海河南北
千里東西である四百
ノリナム

第三回列有四

第一 とものふるべー

今の魯西亞帝

第二世「カボミンド」



十九の國ひ大小諸
獨、時勢よりゆて浮
たれ、魯西亞、若魯
士、奥地利、英と佛と
ひそき國、ひ當時の出



今之
英吉利女王
當時歐羅巴ハ文明
開化世界第一とて
相違も無れぬとか
そども往古ハ矢張

の五國文化の度數
致極をほ五太陽の
本ノリモト根に靈土
みや文化の人民性の
事多、此得て富國強

渾沌無智追々開け
の進むる及でり中
古ハ封建の世とて
専ら武を重んド武
士の威光烈しくお
て町人百姓の難波
せしふとも多ゆき
一ぶ二三百年前
より學問の道漸く
行くも人の生計も

兵天ノ一文の開化の
中心となりたり
に至る實ノノ教の
行脚と德性を修
免却の所は文學

繁昌するふ従ひ世
の人皆智を貴で力
を恐きぞ國の政事ト
も自然よとの邊ふ
基きて次第ト今日ち
の有様お至りか
と今おゝ小渾沌無
知の風俗より文明
開化小至りまじで次
弟よその趣を顯し

枝葉云々業を重
都鄙の差別あ
法方王建之學の所
集多あひ數知れ
彼の産業のあう

たる繪圖と西洋の
地理書より寫して

示もおと左の如き
此繪を見て世の中
の大槻を知るべし



彼商賣乃能多
名備移もし武是
莫々世界二博古
平丸之内除を多
一不公物多是る



の枝は絶えず花
あらん花はてもひ放
義也よ本や年枝
ともいやて方れ
此事急とぞと達

○英吉利の本國ハ
さまで大國ナリ
らば九日本國位の
えのあをどり遠方
小飛地多く五大洲

アーモンド紅茶
シロウモ西洋のそ
英國の北の海獨逸
英吉利名佛茶西

中興大利亞のちて
キドモ英吉利の領
カウトザレ處カ
あれを集セバ英の
一里四方ナリテ八
百萬坪大抵世界の
廣さの六分一かも
其廣大魯西亞かも
劣らばの廣き領
カヌ住ふ人の數

火鳴の國名格
萊東阿爾蘭英倫ナ
ニヨモトニヨモ全衆五
ノアノ威名輝く一後
ノアノ民ニ平九百多

億八千三百萬人他
國小比類か一唯支
那の人別々及むぞ
論頗の外ふも大都
會の數多一「」
ルボムカヒラミン
チム蘇格蘭の都
名ちんボラム阿ホラ
蘭の都ヨドバシ

物遺す所中
ノシタモ鉢石炭
氣若械の源用
トキニヌ多良益
七



等何より繁昌する
市中ヤク
のやあ
の風景
の
極度に勞生り水を
渡るよ急暮れ多
里れ渡しゆく度
北欧走る急氣東
は人ふ翼の新エテ

英吉利ハ世界第一
商賣繁昌の國あ
バ諸國の船の出入
リて港の賑^{あわせ}きも
以ふまでも々々國
中の往来も甚^{じん}々便^{べん}
利あり近來蒸氣船
ハ珍^{めずら}り一^{かず}とど
ども日本人のいふ
や見ぬ蒸氣車とい

飛^とすり疾^{めぐら}に傳^は信
機^キ瞬^{まばたき}く晦^{えみ}ニ多^たま^る
告^こイテ考^かる是^ぜ飛^と船^{せん}
申^{まこと}ト外^{ほか}との新^{しん}すを
至^{いた}シ聞^きエモ伊^い豆^豆古^く

ふもの所をあきハ
馬も牛も用ひぞ唯^{まことに}
蒸氣の仕様^{しう}にて走^は
3.車^{くるま}其疾^{きゆき}出^で
と實^{じつ}ふ人の目と驚^{おどろ}
かも大抵一時^{ひととき}か二
千里^{せんり}を走^はるゆ^る東^{とう}
海道五十三驛^{しち}をと
ハ一昼夜^{いちじゆう}にて往^{むか}返^{かへ}
を^も又傳^{はん}信^{しん}機^き

之^の都^と會^{くわん}の中心^{ちゅうしん}を廷^と
府^ふ樓^{ろう}を界^{かい}セ^せ御^ご御^ご御^ご
今^{いま}本^{ほん}三^{さん}里^り南北^{なんぱ}を

いふものよりあせ
ハ百里も千里も鉢
金を引張てその両
端か名をさせとるや
いふもの仕拭と
設け瞬く間に數千
里の遠方へ相圖り
て談話の出来た趣
向毛斯と石炭と
炭と蒸焼されて其

二百里が間よき所す
軒縁は梯の邊に
立てて鐘を立會ひ
北の山の上に
四十万株の林業を

氣を引き油燭の
代か用さうむのや
但一此等の仕拭ハ
英吉利のミナトば
西洋諸國皆同様ふ
て人の便利と達
夜行をさす提燈を
持てて荷物運ぶふ
馬の背と用ひぞ急
用の文通をうとて

人部と昼夜の峰
なくに馬車ひ群
九

草鞋をもひく道中
で駆りありもしく
何事も智恵くらべ
の世の中や

蒸氣車
傳信機



のあらじえと亨跡
を遠望は森林林木
の景をより河
蒸氣河を架け候

英吉利の海軍ハ世界
界第一ナリ軍艦の數千艘
か近一領が地小備ハ勿論
始終外國へも出張
自國の人を守護して他の
ふ世界中交易の行
英人の威光最盛
場所さてハ

橋を走る蒸氣車
走りぬく朝見
友にタリト多里
旅の急旅海
立たれり

○佛蘭西ハ歐羅巴

中の都トモヘふベ
き真中ホテ土地リ
ノ開け一休花美
シ風俗タク人の
オ氣銳く一學問
と勉め發明多一巴
理斯の大學校とて
ハ世界小並ナ人學

ハす乃日と名づふ
ノルンブルク別モ
ノアムニヨン首の附
ノ渡ハ九里行わ
ノミヒルナリ

問所にて大先生方
の集う處ヤモ



佛蘭西國西ノ界
は西班牙東ノ白耳
義瑞西東西二千六
十里南北北んニ古
余ヨリ南の方ニ北

虎留鹿の嶋ハ佛蘭
西皇帝弟第一世アド
ミラノの誕生セ
由來かく評判高

ミラノの誕生セ
奈保禮恩ハモヤ身
大乱起ミセのせつ
用ひらもて陸軍の

海ミテヨナシト席カ
小人多シ天地の廣太
魯西亞ニ次ぐ帝位
の國ノ口ニテ七百萬
ノ府巴里斯ナム

隊長トサセモ生来
智勇兼備の英雄不
て年二十六才の時
伊太里を攻取テ翌
年ハ奥地利小勝ち
向ふ所天下の敵ふ
一千八百四年即ち
我文化元年佛蘭西
帝の位を即き威名
を歐羅巴洲中小東

別ハ唯湯領ニ及ム
と市中ひし家の義
弟子ナリト文子の義
の姉名は西洋諸
王類ナリ國の



酒ハボラヅチヤン
アヘン酒硝法ハ種族
ニ古往年小祿カ
ノ人ノ多けキト保護
ノ兵士亦多く軍艦

兵士の多けキト保護
ノ兵士亦多く軍艦

國ノ富玉富

教志ムリ推てちる

石数ハ幾五萬ナヒ

角

か一魯西亞英吉利
の外ハ諸國とも大
抵皆佛蘭西小降伏
せ一わどの勢をも
一ヶ千八百十二年
五十萬の大兵を卒
ひテ魯西亞を攻め
大雪のため小難演
次弟小威勢を落

酒ハボラヅチヤン
アヘン酒硝法ハ種族
ニ古往年小祿カ
ノ人ノ多けキト保護
ノ兵士亦多く軍艦

國ノ富玉富

教志ムリ推てちる

石数ハ幾五萬ナヒ

角

甥小當主第三世な
代とせんといふ此
君も英雄の名譽めいよ
て近來ハ頻しづか小海陸かいりく
軍ぐんと盛さかか一いつて歐羅えつら
巴諸國はしょくこくをかうきと
恐おそれといふ

○西班牙はいわんハ其そのむり
強大きょうだいたる國くににて
世界せかい中なか小領こうりょうかも多多く

大小五石ごせき般ぱん陸りくの兵士へいしを五
十兵ひょう軍ぐん暴武ばくぶ戎じゆう彼かれ怒いのり
て生化せいか進退しんたいの所ところ
まほは西洋せいぜい一ひとの強兵きょうへい
と多多く敵てき、以いて得とく

かそ一いが近來ちかにハ衰あせ
へく學術がくじゅつとも繁はん昌めい
昌めいせ也廣ひろき國こく中なか小
蒸氣車じょうきしゃの路じ甚じん少すくな
少すくな元來此國こくの人ひと
ハ骨格こくも勇氣ゆうき少すくな元來此國こくの
事こと小勤こづ心こころ唯ただ唯ただ唯ただ
活計かくじの氣位き位の高たかくして
活計かくじの道みちと勵あまべ

理りより
佛ぶつ東とう西せいの西せい南なん
西班牙はいわん牙や國こくの都みやこを
麻ま土ど律り户と門もんの名な
高たかきはなしをとと人の

頼母一からぬ風俗

ナキ



○葡萄牙より昔日ハ

性質相そひ勤心
首ナリまきは稼穡の道
小村多シ之ノ生産物
ノ多様化矣と佛

盛り國にて専ら
航海を勤りて干四
百九十七年即ち我
明應六年歐羅巴よ
も喜望峰と廻て印度
度へ渡る道筋を見
出せしも葡萄牙の人
をもあでがまと
以ふ航海者を日本
本つ外國人の來る

トトト校ノ遠數
等の下有し西
ナリ廻ル葡萄牙由
ナリ港の河の河口ニ岸
シテ

一ハ天文十一年と
始とをあきもかん
でぞびんとやふ
葡萄牙の人や々
葡萄牙の入や々
の景

國主住居の都す
文化の風俗盛衰
鄰の風異よし
文學技藝の流り
古今の革變と交



○地中海の口ハ治
部良留多留の瀬戸と
一方キモドロアの
瀬戸トモ潮の流込
むのみわて外ふ出
うおとち不思議
カニ場所アキ英人
のち小臺場を築
て狭き一方口と守
るハ囊の口あき
のち小臺場を築
て狭き一方口と守

里須盈ひ港と
立居ヨリ南東ノ京
出キは潮の漲失れ
テ

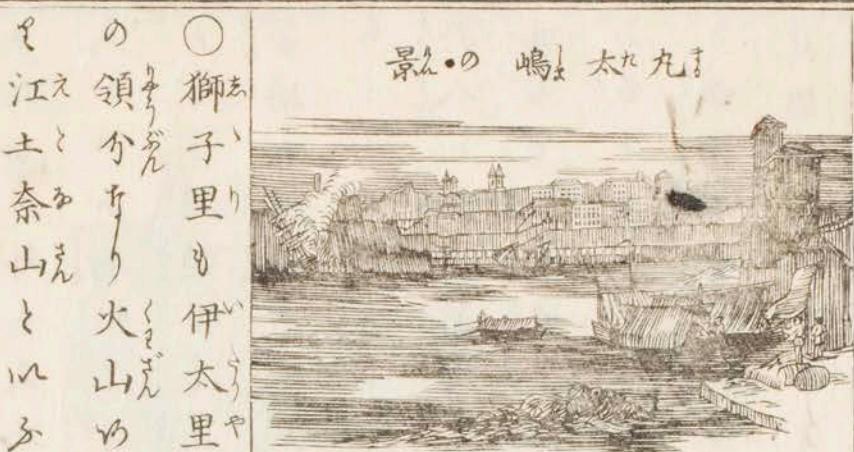
其紐を持つて如一



地中海の港から
南北の何處
加洲北對も歐羅
巴ニ大洋の港沿

太と以ふ嶋れもて
あきも其領ある其
臺場の洪大ハ若ぶ
英人ハ此二箇所の
要害を占て地中海
小威を振て本文
とハふのこでアリ

都良當多當の要害
地中海の喉頭地
理天險小以て築立
たる故其上はアホ不
動の大盤石喉押



太丸島の景

○獅子里も伊太里
の領分なり火山也
江土奈山といふ

背後打美吉利
人の權勢を地中
海に轟轟然恐
れ魔うぬもみはす
一際アモリ



江土奈山と見る
の景

高さ一萬尺余海より望み見づ一歐羅巴の名山あり

馬里當嶋東の方の
猿轡仁窟柳多里越
て伊豆里國御長
く多難一王の狀
多羅之國の狀
多羅之國の狀



書画類多」といふ
いもやや
風景
國地
天氣快くゆふま
そつ比味紀えぞ四
の山の色形のとむ
越へ天の舞歌の如風
法王の領分も近來
ハ大ふ衰へときど

伊太里の南の方
ハ山阪多く北の方
ヨハ平地多一氣候
リ南ハ温トクホー
テ北ハ寒一國中の
人別二千萬人余都
とふろきん连々ハ
ふ名高き學問所
マ元来伊太里ハ舊
き文國ふて古代の

紹先の指の事小
さくしんノン國のも小
さんびや
河百過山南ハ海
くわんせん
宍山也
のりまくら

も名所旧跡多く有
んとペルミトヨウダギ
以ヘラ宮殿ハ目ヒ
驚クモ小足モシ



「おんと
ペルミト
宮殿」
の圖

素朴な様子、いや、そ
く山田よ彌る来ゆ萬民
の極き前アソニ西
海岸ハ羅馬休日主
而テテハ空氣也

○希臘ハ久しく土
留古の支配とナモ
ノガ人民との難苦
不堪ヘモ一て恢復
と謀そ他國の人も
同情相憐みてあを
ヒ助ケ千八百二十
一年の頃より希臘
の苦戦みて遂に由
独立國よ復した

名所舊跡
伊万里國の南より
古渡希臘
由来
紀元前

全國中の人に別百三十
十萬人郡の名を安全洲といふ
全洲といふ



今ハ風流裏ア
多日ひ孫ノあゝ也
り北の隣ノ高畠古
トモ人情相紀一
大國ノ三事二三百



○ 壇地利の人口ハ
三千五百萬人領分
ありの東西多引を
東を壓細々を押
竹ノ布の政府を
歐羅巴帝政威
權限有有國百

も廣一由來久一ミ
帝位の國々を古き
翻譯書も獨逸帝と
記したるハ即ち奥地
地利帝の法とナシ
昔日ハ國民の教行
届き中之海次第ニ
衰へんとする處へ
近來ハ又頻々小文
學の世詰りもて學

友邦もアーレ
仇を起夙夜猶寝
ノルノリく威に移く
百々多あり生民戮
慄くテキモアリ



○普魯士ハ歐羅巴
五大國の一少して
の景
の都
奥地
宇陰奈
の景
問所あども多
利魯佛
國東く灌く駁八部
の河の畔乃ニテ
ハ皇帝临御の大都

文武の盛り。兵と
至れり盡せし。以
ふべ一國中の下人
水飲百姓不至る。ま
でも字と知らざる
者々調練の歩法
と知らざれ者あり
去る慶應二寅年。小
塊地利と戰て勝利
と取て其時敵へ

會國ト一出生焉。產物
を多穀兼實焉。麻薺
葛金銀銅錫多々。
士國ノ口一白八千石
也。其ノ少きは若者
也。其ノ多きは老者
也。

一味の小國とのう
ふと始め六七箇
國と滅して其地を
失せ元來一千八百
萬の人口増して二
千二百萬余の數ふ
上をスル大戰争
日を費ひよハ
僅ふ五十日で
當時西洋ふて

民の教の行廻に貴
賤男女の差別あり
事無不知する者有
一文脩て武備起
兵士二十一萬人

馬和里富等西國
源をもひさは山汲
高年も瑞西國の政
事ハ其和政少事

瑞西の都ヒベリ
ルヒハふ時計細ユキ
の名所ク此國ハ
山國ホて人皆質素
儉約且勇氣ウモ
國の輕険と受けむ
田舎の景



普魯士の都
王宮之圖
力の舜も勢ニ云々
峰の御も立
南れ方の小國
宇多天保當富

○和蘭の人別ハ僅小三百六十萬人を
シテ諸方へ飛地の
領分多一國の人皆
藝學と勉り殊不海
軍ハ此國の得意か
都と「カレ」ヘル
市中奇麗カキド
繁花カトバ國中
一の交易場ハ「アム
リ」

日本ノ文書
ノ様子
百
教の如ク
工技藝手、私者
化の傳ハ被ル
修の流共ノ事乃



ヨーロッパの景
港
亞トガムヒム
河尾の和蘭はアモ
中ニ山が見ぬモノ
た平地ト一何多くシ
惠は來ルノ一人の如
シハ巧ミ諸方ナ

○白耳義ハ和蘭よ
シカキスル國カモ

ども全体の土地柄
ハ和蘭ト里もよく
且國民農業ふ出精
いて少一も不毛の
地カ一鉄石炭も領
内中も出製造物
多一小國あれども
英吉利の風沙
○昔日連國ハ名高
き強國おて今ふ至

築渠土堤塘田畠の
業ト如精一花
の產物少也諸國
一渡多々交易人れ
石食し銭ナリ西

ううで諸方小龍地
の領か多一元治元
子年日耳曼と戰ひ
見苦一からぬよふ
防禦一たをどり衆
寡敵せぞ遂小和睦
一て南の堺不^レモ
ちん近傍の地を失
ひ國の人別五十萬
人を減ド^レモ

の隣^トは百年義^ト
と和^トの化^トま
風俗^トも^トと^ト
春^トも^トと^トと^ト
生^トも^トと^トと^ト



○瑞典能留英ハ一
政府の支配かをど

情多國の富移れ
志す」下り
白耳義ナラモト北の
方より付く先ハ連
國都は骨院波ミ
事と治るを例と
瑞典小ハ蒸氣車の
路少一旅行モラふ
ハ道中筋の百姓よ
マ出セ三四
里の宿次かて

も兩國自から其法
律ハ瑞典王ハ毎
年數箇月の間必ず
能留英ふ行て其國
事と治るを例と
瑞典小ハ蒸氣車の
路少一旅行モラふ
ハ道中筋の百姓よ
マ出セ三四
里の宿次かて

とてヨウナスの交易場
游々、或渡ルハ瑞典
西の築の能留英西
ホのあま、或一金モ
一玉玉西の都を雖

○二百年以前
ハ魯西亞り小國ふ
て且北方の田舎國
リモバ學問も開ケ
モ人氣暴くして殺
伐モ風俗ヤヤ
千六百年代の末
元禄年平土留帝と
中ノ頃英明の君出
一時小國と改革

の氣像塞ム
開ケ花ノ移
ナレト五穀叢実
金額中ノ銭は

人と乗セ荷物を送
ア國法とも
瑞典の都
須徳保
留武
王宮の
圖

ノ人を今も外は乃
の数万石三千石
ノ地

英佛和蘭等の如き文明の國の風が
うつし學校と設け
海陸軍を建て内と
守り外と攻撃歐羅
巴諸國と並び立つ
一大國の基を開
のミナムモ堂々た
る今日小至りまで
威名と世界中ふれ
き

独立の世界民族の
名所ノアリ
次座保商武門港よ
東帝國魯西亞の
事



都拿新都平土
首保商府ナリ抑魯
西亞の領主ハ亞細亞
本利加歐羅已三國
ニ跨りて東西二千九百
魯西亞の都ハモヤ
モモロウヒカ處
カモ一ト平土留帝
の時ニ北方の海岸

へ新都を開き
を平土留保留府
と名け奈和とい
ふ河畔かにて
當時ハ歐羅巴洲中
小少數少大き大都
氣甚しき冬會
の間ハ河水冰も
て海すどり氷の上
當時ハ歐羅巴洲中
小少數少大き大都
氣甚しき冬會
の間ハ河水冰も
て海すどり氷の上

余南北一千里世
界丸花と云ひ
一を有す。一政府生殺
と奪ひ權柄を握る
皇帝一人が主と余

と往来を盛り



魯西亞ハ他の歐羅

あれ人氏の上立た
る者一九君四海の波
と都鎮る河世
の治不亂私忘水ぬ
能の事不文武の教

敵と受る兵と少な
く且其武備格別ふ
よく行届きたとい
外敵と受るも敗北
せ一兵とも既不
安政元年英佛の大
兵黒海よりへりせ
れをとねりて五
きどり敵味方五
處と攻め一兵や
れをとねりて五

巴諸國と違ひ立君
獨裁といふ政事の
立方ふて國帝一人
の思ひ通し勝手小
事と捌く風かと故
不下々の情合上小
通ぜば一て國中不
平と抱く者多
さきどり其國柄北
方小偏りて外國の

解たゞり兵士の數
を半ま國の後方不
設けりハモ九百れ
枝ホ九百五萬ノ枝
カシムニシテ即よ藝

物ハ五穀獸歎麥
烟そニ良山山に林處
ノ金銀銅錢夥

の勝敗を一とひ

ふ

支那易れ解ふ昌ハ英
亞法國ヨ及ヌ内

小勤る農の業ハ力
は日よ増月弘
埠の北を守て南仄



もあハ魯西亞
の舊都おてペ以と
うだのふの東南百
七十里をうとの處
ふ所を蒸氣車に乗
モ一日ふて達モ麗
一隨分繁華ある都
會か里千八百十二
年攻入モ一ノ大
兵攻入モ一ノ大

改元西遼ヨ黒海
ドリ名海の多の主
さひ重ハ支那れ
滿州も半を魯西

人ハ自カノ市中と
燒拂ひたきども其の
後まゝ普請一て却
く以前より奇麗
か々市中ふ寺院多
く名代の鐘乃至高
さ二大一尺重三千
六百とん即ち我四
十三萬三千六百貫
目米小毛毛バ一萬

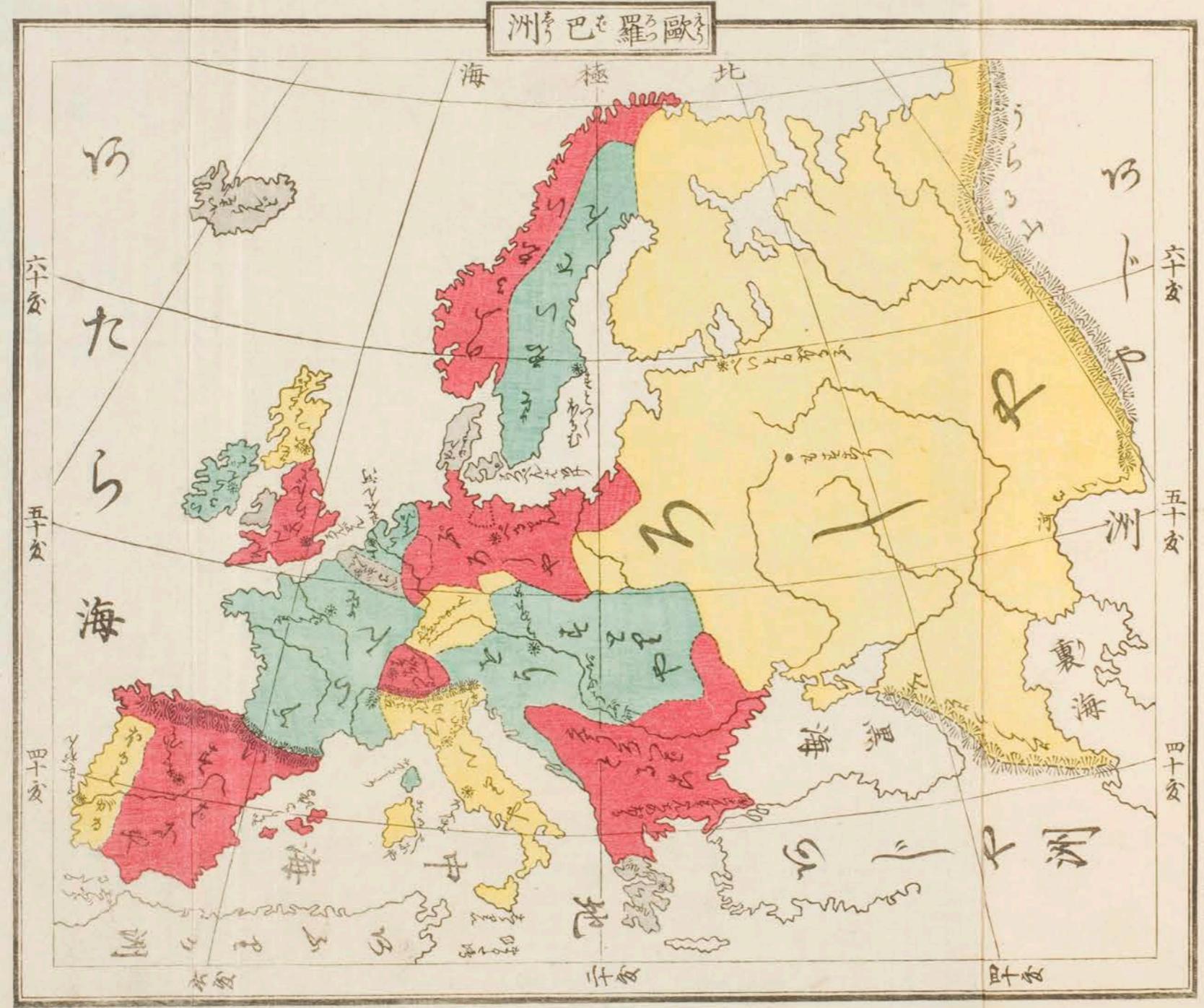
鮮國の碑ます勢
せする双頭の鷲の積
多羅彌成切を
多羅彌成切を
行木

つまう様を今よ
見え難いん
見え難いん



世界國盡卷三





2
43
6

43

6

福

13-1

著作